

## 令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

令和7年3月1日

学校法人 東英学園

認定こども園 東雲幼稚園

### 1 本園の教育目標

- (1) 心身が健康で明るい子に育てる。
- (2) 自分で考えたり、工夫したり自主的な行動のできる子に育てる。
- (3) 誰とでも仲良くし、思いやりのある子に育てる。
- (4) 心の束縛を解き、自由を与えながらきまりのある子に育てる。

### 2 今年度重点的に取り組む目標・計画

- (1) 友達との関わり合いを深めながら、意欲的に色々な活動に取り組む。
- (2) 自分の思いをのびのびと表現できるようになる。

### 3 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	子ども達の人と関わる力の育ちについて	A	本年度よりプロジェクト保育や朝の「アトリエ」での活動を通じて異年齢交流に力を入れることができた。特に年齢の壁を越えたプロジェクト保育は準備段階の話合いから製作、本番の活動に至る様々な関わり合いを通じて人と関わる力を育てることができた。
2	子ども達の表現活動について	B	今年度より朝の自由遊びの時間に「アトリエ」を開放し、様々な素材や教材・画材を自由に使って好きな物を一人で或いは友達と一緒にのびのび作ることができた。但し、工作が多く、絵の具による絵画には及ばなかったことが反省点である。
3	職員の資質向上について	B	各自、自己課題をもって日々子どもたちと関わった。以上児会議や未満児会議、子ども一人ひとりについて話し合うカンファレンスを開くなど、教職員間で話し合う機会を増やし、同僚性の向上に努めることで日々の保育が丁寧に行われるよう努めた。また、自己評価を通じて振り返りを大事にできた。

### 4 総合的な評価結果

評価	理由
B	コロナ禍で分散保育や黙食などを経験し、人と関わる力の育ちが気になり始めて3年程経つ。人と関わる力を育てるためには異年齢の関わり、様々な年齢の子ども達が混ざり合い、絡み合って過ごす時間の大切さを痛感し、春から様々な取り組みをしてきた。大きい子たちは小さい子に頼られて自己肯定感が上がり、小さい子たちはお世話されたり、諭されたり様々な関わりの中で人と関わる喜びや安心感を味わい情緒が安定する。様々な取り組みができた。

### 5 今後取り組む課題（自己評価のデータ平均値が低い項目含む）

	課題	具体的な取り組み方法
1	保育の見通し	本園の教育課程に沿って先を見通し計画を立てて取り組む必要性を感じた。
2	子育ての支援	様々な分野での保護者支援の必要性を感じているが十分に組みこめなかった。

## 6 学校関係者評価委員会の評価

園の管理・運営、並びに教育活動については(A=3、B=2、C=1)3段階での評価で平均 2.8 以上の評価を得た。以下に記す。

### 1 園の管理・運営について

	内 容	平均値
1	園の環境整備や美化に努めている	2.9
2	施設・遊具の安全対策を行っている	2.9
3	園の施設や設備を有効に利用している	2.8
4	外部からの不審者の侵入などに対して安全対策を行っている	2.8
5	地震や火災などに対して避難訓練や安全対策を十分行っている	2.8
6	教育方針をわかりやすく伝えている	2.8
7	保育を参観する回数が適切である	2.8
8	家庭や連絡や保護者との連携が積極的に行われている	2.8
9	地域や保護者の意見に応えようとしている	2.9
10	地域に開かれた幼稚園づくりを行っている	2.8

### 2 教育活動について

	内 容	平均値
1	子どもは教育目標の姿になっている	
	①心身が健康で明るい子	3.0
	②自分で考えたり工夫したり自主的な行動のできる子	2.8
	③誰とでも仲良くし、思いやりのある子	2.9
	④心の束縛を解き、自由を与えながらきまりのある子	2.8
2	子どもの様子を連絡ノート、園だよりやブログなどで知ることができた	3.0
3	遊びを通してルールを学んだり我慢したりといった経験を積めるような工夫をしている	2.9
4	子どもは喜んで幼稚園に通っている	3.0
5	命の大切さや社会のルールを守る態度を育てようとしていると感じられた	2.9
6	子どもに良い習慣や態度が身につくようにしていると感じられた	2.9
7	一人ひとりの子どもを大切にしようとしていると感じられた	2.9
8	子どもの心身の健康や悩みなどを気軽に相談できた	2.9
9	教職員は協力し合って保育にあたっている	2.8
10	保育室や園全体に子どもの活動や季節に合った保育の工夫が感じられた	2.9

## 6 学校関係者評価委員会の評価

その結果を踏まえ、教職員による自己評価を実施。それらの結果をまとめ、本学校法人の理事会評議員会での「学校関係者評価委員会」において評価結果を踏まえた振り返り、及び来年度に向けて改善点を話し合いまとめたところである。評価委員の方々からは、異年齢保育活動の充実やアトリエでの自由な雰囲気作りなど保育の質の向上に向けて取り組んでいることを評価いただいた。今後の課題としては、地域に開かれた園づくりについて、もっと方策を考えて取り組むべきであるとのご意見をいただいた。